

## 令和5年度第1回評価委員会結果の概要

### 1. 委員会の概要

- 日時： 令和5年8月18日(金)13:30～15:30  
場所： 水みらい広島本社会議室および Web 会議(Microsoft Teams)  
議事： (1) 令和5年度以降の活動の基本方針（案）について  
(2) SDGs への取り組みについて

### 2. 報告内容

以下3点についての内容を記載する。

- ① 令和4年度での委員任期満了に伴い、令和5年度における委員の選任
- ② 令和5年度以降の活動の基本方針
- ③ SDGs への取り組みについて

#### ① 令和4年度での委員任期満了に伴い、令和5年度における委員の選任

令和4年度での委員任期満了に伴い、令和5年度における委員の選任を行った。令和4年度を以てア  
クアスフィア水教育研究所／橋本委員が退任され、後任として広島工業大学名誉教授／今岡委員が新た  
に着任された。今年度の第三者評価委員会（以下、「本委員会」という。）は以下の委員より評価をいた  
くことになった。

所属	所属部署・職名	氏名	
公益社団法人日本水道協会 水道技術総合研究所	主席研究員	今井 滋	続投
広島ガス株式会社	理事 経営企画部長	大下 力	続投
呉工業高等専門学校	教授	黒川 岳司	続投
広島工業大学	名誉教授	今岡 務	新任
水道技術経営パートナーズ株式会社	代表取締役	山口 岳夫	続投

#### ② 令和5年度以降の活動の基本方針

令和4年度第1, 2回の本委員会での意見および水みらい広島（以下、「当社」という。）と事務局での  
議論を踏まえ、令和5年度以降の活動の基本方針は以下とした。

方針	
1	水 ing が主体となり運営する。
2	第三者評価委員会のみ年2回開催とする。
3	年2回の第三者評価委員会は次の運用とする。 ・第1回（7月、8月頃開催）：当期方針と運営状況の確認

	・第2回（翌年2月、3月頃開催）：評価報告会
4	評価委員の任期は、4月1日～翌年3月31日とする。（1年間）
5	第三者委員会の事務局は、水ingが務め、委員会での進行役とする。
6	水みらい広島への追加ヒアリングやワークショップは、必要に応じて検討する。
7	第2回評価委員会開催後に評価報告書を取りまとめて公開する。
8	第三者評価委員会活動の基本方針は、概ね5年を目途に見直しを図る。
9	第三者評価委員会に諮るテーマは、以下とする。 「SDGsへの取り組み」

### ③ SDGsへの取り組みについて

平成31年度からの本委員会にてピックアップとして評価いただいた「人材育成」および「広報活動」については、これまでの本委員会を通じて一定の成果と評価を得られていること、加えて平成31年度に策定した活動の基本方針は運用から5年程度経過して見直しのタイミングを迎えつつあったこと、などを踏まえて新たなテーマを検討することになった。

当社と事務局で協議する中、当社のSDGsへの取り組みが、当社の事業内容、人材・組織や新規事業と幅広く合致し得るものであり、設置要綱2条（委員会は、株式会社水みらい広島における客観的な事業運営評価を所掌する。）と整合するため、新たな評価テーマとして「SDGsへの取り組み」（案）を設定し、本委員会にて承認いただくことになった。

令和5年度第1回の本委員会では、その具体的な内容や計画について報告し、次回第2回で具体的な取り組み内容と取り組み結果をご報告する予定である。

参考として以下に当社におけるSDGsの考え方やプロセスなどを記載する。

＝ ＝ ＝

#### 【SDGsとは】

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）は、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）を後継する目標として、2015年9月の国連サミットにおいて加盟国の全会一致により採択された国際的な目標である。

2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す旨が示された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載されており、17のゴールと169のターゲットから構成されている。

SDGsは、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを理念として、人種・民族・性別・世代を超えて取り組むべき普遍的なもので、これらの目標を達成していくためには、普遍性、包摂性、参画型、統合性、透明性が必要と言われている。

#### 【水みらい広島におけるSDGsとは】

当社は、これまでの水道事業の運営を通して醸成した透明性を持ち合わせる。普遍性は、経営層と社員が同じ目標を共有し、行動することで持ち合わせることができると考える。このような行動により、組織の中の誰

1 人も置き去りにしない環境が創り出されることで包摂性が醸成されると考えている。そして、このような環境に身を置くようになれば、すべての社員が当事者意識を持つことが可能になり、より容易く参画性を手にできると考えている。

また、SDGs の達成において解決すべき課題は互いに絡み合っていて不可分であることから、他者との協力、他社との協業は必然である。よって、これまでに当社が経験したことのないレベルでの統合性が必要になると考えている。

当社は、水道事業の理想モデルを創出する企業として、既成概念にとらわれることなく常に新しい価値の創造に取組み、変えるべきは変えながら、SDGs 活動に参画していく。

#### 【当社のこれまでの取り組み】

当社は、2021 年度から SDGs の活動を本格的に開始した。活動当初、水みらい広島が抱える課題について全社内でヒアリングを実施し 70 項目の課題を抽出、その後、当社にとっての「影響度・重要度」および「社会的関心度・重要度」の指標を用いて、今後の解決すべき課題を 43 項目抽出した。

次に、抽出した 43 の課題を SDGs における 169 のターゲットと擦り合わせることで、重点的に取組むべき項目を 9 つ設定、当社の事業に直接関係する『水』、当社の事業を支える『組織』、当社の事業に関りの深い『環境』という 3 つの分野を設け、これら分野における当社のあるべき姿を決定した。

#### 【当社のこれからの取り組み】

『水』、『組織』、『環境』という分野に示した 9 つの取組み項目に対し、当社がこれまで体得した水道事業運営に関する見識、知識、知見、ノウハウを、改めて落とし込むことで SDGs を達成していく。取組みにあたり、新たなデジタル技術、時代に即した組織論、これまでの枠を超えた協業体制を積極的に取り込んでいくことが必要になると考えている。

#### 【当社の SDGs 活動方針】

「水みらい広島は持続可能な開発目標（SDGs）に賛同し、「水事業」を通じて、より良い社会の実現に貢献します」と設定した。SDGs 活動分野を『水』、『組織』、『環境』に区分し、各分野における活動の目的を明確にした上で、この目的に到達するための目標を定めた。

以上